

石川準十郎 いしかわじゅんじゅう 政治學者。明治二十二年六月一日石川県盛岡生まれ、昭和五十五年二月二十一日歿（八十九歳）。盛岡中學校を経て、大正十二年早稻田大學政経學部卒。在學中から尚書素子への入社社へ参加してマルクス主義、社會思想を研究。昭和七年日本國家社會主義學團を興して事務局長となり、雑誌『日本社會主義』創刊。九年大日本國家社會黨を結成（十二年解散）。十八年『滿洲日報』編輯顧問、建國大學特別講師として渡滿。二十一年歸國後ハム職労放逐分を受け。二十四年早大教授、二十七年病を獲く辭す。

譯書に、カール・カウツキー著『マルクス經濟學入門』（大正十四年七月十五日新潮社「社會新學說大系」）、ジィ・デー・エッチ・コール著『機能的社会國家論』（大正十五年七月十七日新潮社「社會新學說大系」）、ヨゼフ・ドイツゲン（デイーツゲン）著『マルキシズム認識論』（昭和四年二月三日改造社「改造文庫」）等がある他、『マルクス社會主義より國家社會主義へ』（昭和七年二月十五日前掲略）『日本社會主義研究所パンフレット』、『ヒト・マイン・カンフ』研究（合冊普及版・昭和十八年六月一日國際日本協會）、『共產主義國家論批判』（昭和二十二年十一月）『五日共利書房』、『社會主義論稿ー理論と歴史の再検討』（昭和二十八年一月一日新思潮研究会）等を著す。

